

9月4日に開港30周年を迎える関西空港。多彩な旅客機が発着する



関西空港（大阪府泉佐野市など）は4日、開港30周年を迎える。長く需要低迷に悩まされたが、2010年代にアジアのインバウンド（訪日客）を受け入れる「関西の玄関口」として急成長。25年大阪・関西万博で多くの旅客を迎えるため、第1ターミナル（T1）では約700億円を投じた大規模改修が進む。国際化が決まった関西空港とともに進化を続ける。（大島光貴）

# 関西開港30周年

左の記事を読んで、下の問いに答えましょう。

1 空欄に入る言葉を、本文中から抜き出して書きましょう。

2 傍線部の旅客数の変化を示したグラフについて。矢印の部分の変化はどんな原因が考えられるか、次の選択肢から選んで記号で書きましょう。

- ㊶新型コロナウイルス流行
- ㊷LCC就航
- ㊸SARS流行
- ㊹リーマンショック

A	B	C	D
---	---	---	---

## 急成長 アジアへの玄関口

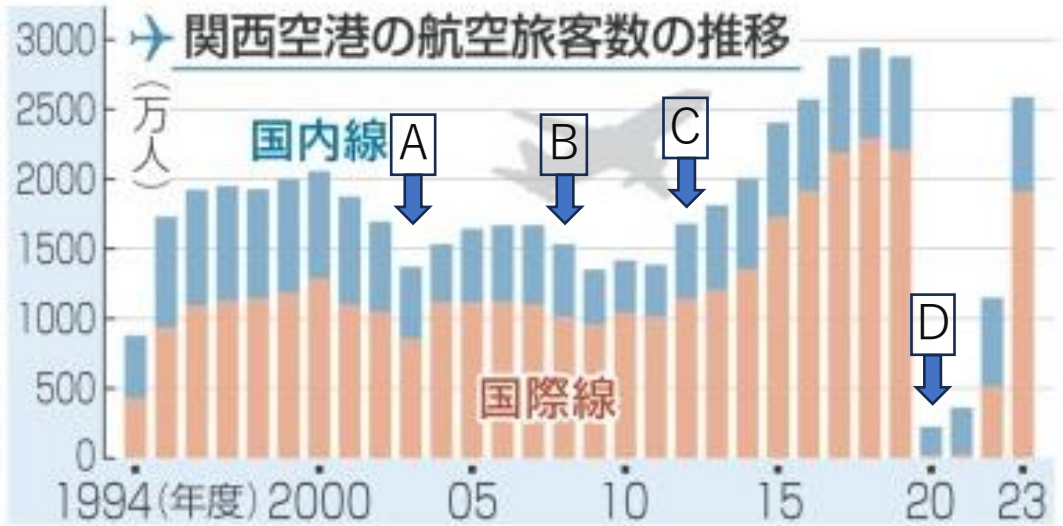
多くの旅客でにぎわう第1ターミナルの国際線出発ロビー。大きな荷物を持った人々が行き交う。関西空港

関西は1994年9月4日、世界初の本格的な海上空港として開港した。60年代、大阪（伊丹）空港の騒音問題から新国際空港の建設が喫緊の課題となり、候補地に大阪・泉州沖や神戸沖、播磨灘などが浮上。神戸市などの反対が相次ぎ、泉州沖への建設が決まった。開港以来の旅客数は浮き沈みを繰り返した。バブル崩壊や01年の米中核同時テロ、03年の重症急性呼吸器症候群（SARS）流行……。07年に第2滑走路が完成し、国内初の完全24時間運用となったが、08年にはリーマン・ショックに襲われた。局面が変わったのは12年だ。格安航空会社（LCC）が就航し、専用の第2ターミナル（T2）が完成。旺

### 3空港一体運営

1994年に開港した関西空港。開港後も国内線空港として存続した大阪（伊丹）空港。国際線のない地方空港として2006年に開港した神戸空港。関西3空港のあり方を巡り、地元自治体や経済界は長く議論を重ねてきた。転機は18年。関西エアポートグループによる3空港の一体運営が始まり、関西の容量拡張と神戸空港の規制緩和に向けた議論が進んだ。22年9月の関西3空港懇談会では、神戸空港の国際化や関西、神戸の発着枠拡大で合意した。

盛なインバウンド（訪日客）エアポートなどが設立した需要を取り込んだ。16年に関西エアポートが、伊丹空港は運営権を民間企業に売却。港と合わせて運営を始める「コンセッション」をた。18年には神戸空港も加わり、関西3空港の一体運営の空港運営会社パンシ・営が実現した。



3 旅客数が最多になったのは何年か、書きましょう。

## NIEワークシートのこたえ（2024年9月4日公開）

◆ワークシート「関空開港30周年(社会 グラフの読み取り)」

2024.9.3付 朝刊 22面 解答

1 神戸

2 A (ウ) B (エ) C (イ) D (ア)

3 2018 年